

## 本部会議での主な発言(若者・女性)

## 若者

## ■キャリア教育・モノづくり人材

- 経済界で色々話をしていると、最後は教育だという話になることが多い。中でも、働くことの価値観など根本的なことを教えることが必要と感じる。(第4回本部会議)
- 人づくりの課題には、若者の就職・雇用支援といったことがある。(第2回本部会議)
- 大学の新卒者の就職内定率の低さが話題になっているが、中小企業にはなかなか来てくれない。少しでも中小企業に目を向けてもらいたい。(第3回本部会議)
- この地域はモノづくりの地であるので、モノづくりを支える人材の育成は大切。理科系の教育であるとか、工業高校であるとか、そういった分野を磨き上げる必要がある。(第2回本部会議)
- 技能五輪に代表されるような、名工・匠を育てるような環境整備が必要である。(第1回本部会議)
- 技能専門学校である工業高校、高等専門学校といったものが、もう1回再生されるメカニズムはないかと感じている。(第2回本部会議)

## ■グローバル人材育成

- グローバル人材というのは、留学生をたくさん呼び込むということもあるが、実は、日本人のグローバル化の方が大事。名古屋の若者を国際的な感覚を持てるように育てることが必要。(第2回本部会議)
- グローバルな人材の育成などは人づくりにおける課題の1つ。(第2回本部会議)

## 女性

## ■子ども・子育て応援

- 愛知・名古屋が率先して、子どもを産めば、産むほど得をするような都市にすれば、おのずと人材は集まる。(第1回本部会議)
- 産業を活性化させるためには、人がいるわけだから、女性が安心して職場に出られるよう、子づくりや、子育てができる環境にしないといけない。(第1回本部会議)
- 女性にとって住みやすいまちということを公約数的に並べてみると、犯罪の少ない安全なまち、自然災害・交通事故の少ないまち、清潔なまち、自然のあるきれいなまち、子育て・教育のしやすいまちということが出てくる。(第2回本部会議)
- 人づくりの課題の1つとして、女性支援、仕事と家庭の両立といったことがあげられる。(第2回本部会議)
- 名古屋、中京都に住めば、子どもが育てやすい、何人産んでも平気だと、そういう環境を一刻も早くつくるべき。人間を一つの資源と考えると、これからの10年、20年は、人的資源の取り合いが起こる。(第3回本部会議)

## ■女性の活躍の場の拡大

- 女性が活躍できる社会を考えたとき、中部のアイデンティティを考えると、高度な技術とリケジョ(理系女子)の活躍、また、それに必要な施策が共通の目標になる。(第4回本部会議)
- 来年は、「女性のアジア人材を育てる」という大学院構想を出して、文科省の承認を得た。愛知県の女性はしっかりしているので、これを世界に発信する。(第4回本部会議)